

駆ける トップシェア企業



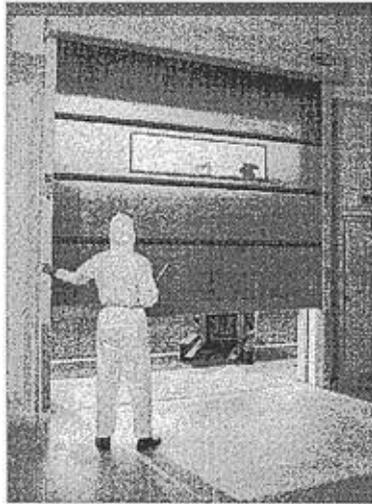
小松昭夫社長

が重要」と話す。

一九八五年に自動開閉シートシャッター「門番」を発売して以降、細かい改良によって高速性と耐久性の両面に磨きをかけた。

松江市に本社・工場を置く小松電機産業は、工場の通路に使うビニールシート製の高速シャッターで国内シェアの約五〇%を持つ。シャッター大手との競争でトップシェアを維持する秘けつについて小松昭夫社長は「常に商品改良し、新しい市場を創造し続けること

防虫効果の高いオプトロンシャッターは食品工場などに対応する



会社概要 一九七三年創業、八一年設立。資本金一億円。従業員八十三人。二〇〇一年七月期の売上高は三十七億九千九百万円、経常利益は八億八千六百万円。シートシャッターのほか、上下水道施設の自動制御監視システムを製造販売。松江市と島根県八雲村に工場。

九九年には防虫効果の高い「オプトロンシャッター門番」も発売した。虫が感応する波長域の光をカットするオプトロンシートを採用したのが特徴で、人間の目には通路が透けて見えるが、虫には中側が暗く映り、誘引されにくい。従来のシートシャッターに比べて二倍の防虫効果が期待でき

プの支援を得ており、外開閉スピードが格段に速かった。防寒効果が高いため、月産百台を超えるヒットとなり、同社の売上高は八六年の約六億円から九〇年には三十億円を超えた。最初は防寒用で季節商

開閉速度・耐久性に磨き

新機能
次々に

小松電機産業 シートシャッター

考案された減速機を改良。百回の高速開閉にも耐える人や車の高さセンサーが感知し、人なら半開に、車なら全開にする

と、一台が閉じなければもう一台が開かない「インターロック」機能が働いて、ほこりなどが入るのを防ぐ。きめ細かい工夫で工場内の環境変化を最小限にとどめる。

市内の異業種交流グループ。建設不況で配電盤などの受注が低迷した八五年、起死回生策として全八万台に達している。現在は情報技術(ITT)を生かしてさらに高機能化していく方針だ。

と、一台が閉じなければもう一台が開かない「インターロック」機能が働いて、ほこりなどが入るのを防ぐ。きめ細かい工夫で工場内の環境変化を最小限にとどめる。

市内の異業種交流グループ。建設不況で配電盤などの受注が低迷した八五年、起死回生策として全八万台に達している。現在は情報技術(ITT)を生かしてさらに高機能化していく方針だ。

市内の異業種交流グループ。建設不況で配電盤などの受注が低迷した八五年、起死回生策として全八万台に達している。現在は情報技術(ITT)を生かしてさらに高機能化していく方針だ。